

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名:鈴木 愛裕

所属:千葉県立柏特別支援学校 流山分教室

記録日:R4 年2月25日

キーワード: 好き・楽しい・得意な活動を生かす、安心を増やす、コミュニケーション、家族との連携

【対象児の情報】

・学年

高等部2年

・障害名

知的障がい

・障害と困難の内容

言葉による理解、言語化、文章化することが苦手

コミュニケーション

・使用した機器に

iPad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

1.「楽しく表現することを増やす(気が付く)」

2.「安心を増やす」

・実施期間

2021年5月～2022年2月まで

・実施者

鈴木 愛裕

・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象生徒の事前の状況

コミュニケーション

・好きな食べ物は?好きな色は?など簡単な質問には決まった単語で答えることができる。シナリオを読んで日直の仕事などを進めることができる。作業学習など決まった場面や慣れた人物に対して「終わりました」「これ?(どうしますか?)」など伝えることができる。簡単な質問への分かったか分からないかの返答や自分の体調、考え、困ったこと、取り組んだ活動内容などを言語化すること、文章化することが苦手である。繰り返し取り組み、覚えている単語を言うことができる。例えば「何の作業をしましたか?」の質問に「種まき」など答えることができるが、分からないことがあると「わかんない!」「わかりません!」と言って顔をしかめたり下を向いたりする。

・保護者は、連絡帳に書かれている本人の一日の様子や本人が発する単語から推測し、話を膨らませてお話しをしてくださっている。家庭では、日々の支援として写真やイラスト+文章でカードを作成しサポートしている。

・1年生の時は「友達をつくりたい」と言って入学してきた。休み時間は、好きな友達と関わりをもちたくて近くに行って立っている。好きな友達には手にちょっと触れたりチョココンと体当たりしたりして関わろうとしている。周りが話で盛り上がり出すとその場から離れてしまうこともある。

行動面

- ・見て理解することが得意なので手本を見れば、多くの作業工程を一人で進める事ができる。周りの様子をうかがって正しいかを確認する姿が見られる。
- ・現場実習などは視覚的支援と兼用して実際に保護者と数回通勤練習をして臨んでいる。視覚的支援が無いことが続いたり、いつもと違うスケジュールが続いたりすると、疲れが溜まったり不安定になる様子がうかがえる（行事が続くなどいつもと違う日課変更が多いなど）。

興味関心

- ・お菓子/料理作り（保護者と頻繁に作っている）・絵を描くこと（パソコンやiPadで描くことも好き）・モノづくり（ペーパークラフト、フェルト人形、羊毛フェルト、プラバン、折り紙など）・YouTubeを観る事・色塗り・かわいいもの・いつも笑顔でひょうきんな仲間・人前に出て発表をした後、笑顔なことが多いので人前に出ることが結構好きなのでは?と感じる。

【活動の具体的内容と対象児の事後の変化】

1. 「楽しく表現することを増やす(気が付く)」の目標において

アプリ・活動内容	対象生徒の変化
<p>トーキングエイド</p>  <p>言葉に関する実態把握を行う。食べ物、乗り物、果物、野菜、生活道具、基本的な動詞の絵カードを見て、トーキングエイドか発声で答える。</p>	<p>その時の実施者とのやり取り取りを楽しむ。濁音や長音を間違えるぐらいでほぼ全ての名前が分かっていた。iPadを渡すと、自分からアプリを開いて進んで答えるようになった。口から言葉として発するよりも自信をもって答えている。正解すると嬉しそうな表情をすることもあった。話すこと、文字を書くことよりもiPadで文字入力し、音も確認できることを好むことが分かった。ドロップトークで作成したスケジュールなども必ず音を出して聞くようになった。</p>
<p>iMindMapKids</p>  <p>自分の好きな事、得意な事などをイラストや写真を使ってまとめ、自分を表現すること、自分をもっと知ってもらうことを楽しむ。</p>	<p>自分のマインドマップをプロジェクターで映し出しながら、みんなの前で発表し、自分をもっと知ってもらう機会をつくることができた。</p> 
<p>DropStep+ByTalk</p>  <p>対象生徒、保護者、担任でグループを作り、長期休暇、週末の活動、学校の活動写真をお互い送り合う。バイトークの内容を長期休暇後や朝の会の時間などにiPadを操作しながら学校で紹介する。</p>	 <p>アプリ使用はじめ(7月)。抵抗が無いよう楽しく始められるように保護者の支援が多く入っている。</p> <p>「おいしかったです」、スタンプ、「できました」など生徒自身の短い言葉が出てきた(8月)。文章には保護者の支援が入り入力は本人が行う。</p>



←ByTalk を映し出しながら説明する様子。はじめは ByTalkの文字を読み、写真をみんなに見せる順番を教員と一緒に進めたが、すぐに自分ですすめるようになった。写真と文字を周囲と共有できるのでクラスメイトも分かりやすく食い入るように見ている反応が良かった。本人はその反応をよく見て終始笑顔だった(2021.9)。



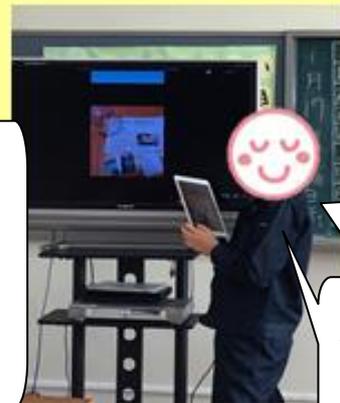
←家で制作した実物を見せているところ。クラスメイトが「すごい!」「天才か!」と言って集まる。自分から嬉しそうに見せていた。(2021.9)

お互いの話を聞く恒例の時間になった(2022.1〜)。



これは何ですか?

どこで買いましたか?



真珠です。
〇〇です。

週末にしたこと、夏休みや冬休みにしたことなど9月からほぼ毎週初めや探求の時間に ByTalk を映し出し発表した。同時に他のクラスメイトも週末のことや長期休暇についてスマートフォンの写真をテレビに映し出しながら話す場となった。本生徒は友達の写真も見ていた。とくに同じ趣味(お菓子作りなど)の説明になると良く見ている。はじめは ByTalkの文字を読み、写真をみんなに見せるという順番ですすめ、合間に友達から質問され、教員が分かりやすく伝えるという形をとっていたが、「これは何ですか?」「どこですか?」と質問を先にして「〇〇です」などと画像を見せながら単語を発していく場面が多くなった。読むだけよりやり取りがより生きたものになってきた。ByTalk の写真を見ることで自分でヒントを集めて答えるようになった(2022.1)。



ByTalk からの写真や作品の制作・調理途中の写真、レシピ、実物など家庭からの多くの資料も「Bunstagram」として廊下に掲示した。他生徒の作品も掲示することで、お互いを見比べたり、休憩時間に見に行ったり、実物を職員室や他クラスに見せに行ったりするようになった(2021.10~)

本校は県立流山高等学校と校舎を共にしている。文化祭も合同で行っている。今年度は、生徒の作品も掲示した。自分の作品を見て喜んでいるところ。

流高祭のために各班で生徒自らアイデアを出し紹介動画をつくりました。これらは動画に登場するほんの一部の画像です。

《来週(12月)の予定》 羊毛フェルト さん「くまモン」 フレームのイラスト さん「縫製班友達」

1	自活/保健体育	自活/保健体育	1・2年 自活/保体	3年 ※本校登校	1・2年 自活/保体	3年 修学旅行 (鴨川)	保健体育
2	作業学習	国語	職業 実習	修学旅行 事前学習	作業学習	修学旅行 (鴨川)	理科
3		数学					社会
4		職業					家庭科
昼食							
5	作業学習	情報	職業 実習	LHR ※分教室下校	職業実習	修学旅行 ※本校 登下校	音楽
6		自立活動					美術
夕食							

《来週(12月)の予定》

1	自活/保健体育	自活/保健体育	自活/保健体育	養育計画/保健体育	保健体育
2	作業学習	国語	職業 実習	作業学習	理科
3		数学			社会
4		職業			家庭科
昼食					

学校だよりも定期的に作品を掲載。周囲から本人へのフィードバックを増やす。

Inshot **iMovie**

保健体育のダンス動画、活動紹介動画、委員会動画やポスターの編集を行う。好きな友達と組んで踊ったダンスの編集や得意な活動や自分で選んだ活動を編集、紹介する。

文化祭に向けて作業班の紹介動画を作成。テンプレートを使用することで自分の好きな写真や動画を選びフレームに入れ込んでいく。表現の幅が広がり自分で色々試す場面が増えた(2021.11)

体育の授業で発表したダンス動画を編集しているところ。大好きな友達とチームを組んで、一緒に踊って、編集も一緒に行なった。ステッカーやエフェクト、文字などが直感的に入れられるうえ、マニュアル作りなどにも使っていたアプリなので1月には操作に慣れ、友達と交互に思い思いの編集を集結させて楽しんでいた。iPadを使用することで楽しく仲間とやり取りする場面を増やすことができた(2022.1)

2. 「安心を増やす」の目標において

<p>アプリ・活動内容</p> <p>DropTalk6</p> <p>月予定や行事スケジュール、職場実習、校外学習、いつもと違う日課や急な変更の際に使用して取り組む。手順表を見て取り組む。</p>	<p>対象生徒の変化</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>11月</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>12月(予定はてい)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>実習契約+学校に戻る日の予定</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>駅伝大会の予定</p> </div> </div>
<p>行事や現場実習、日課変更が多い10月からカレンダーや1日のスケジュール確認の為に頻りにアプリを使い始めた。トーキングエイドを使用した時点から、絵、文字だけではなく音を確認することを好み、DropTalk でも一つ一つの絵、文字+音を自分から必ず確かめるようになった。</p>	

まずは、DropTalkに抵抗が無いよう保護者が作成した絵カードのイラストをできるだけ使うようにした。はじめは教員がアプリを開いて渡していたが、朝 iPad を教室に置いておくだけで自分から開くようになった。日程が複雑な日は、昼間自分でアプリを何度か開いて確認することがあった。昨年度、中止になった行事やその練習、実習などが次々に行われたにも関わらず比較的落ち着いて取り組んでいた。教員も一緒にアプリを確認することで本生徒が理解しているか困っているか確かめられた。また、アプリだとどこに注目するかが分かりやすく、終わったところにチェックを入れて次を見るようになった(2021.11~)。12月の校外学習では自分で DropTalk を開いてスケジュールを確認できた。「○○くんこっち」「はやく」など友達に声をかける場面もあった。このように声をかける場面を私は初めて見る事ができた。

Inshot iMovie



静止画像では分かりにくい物を動画で見て取り組む。

駅伝大会コースの動画



駅伝大会当日



学校で書いた年賀状に自分から駅伝大会を選び「駅伝大会が楽しかったです」と書いた。



自分で作成した清掃手順



駅伝大会には事前に試走会へ参加してから本番に臨むが、実習契約のため駅伝大会前の試走会には参加しなかった。そのため、コースのビデオ撮りをして iMovie で編集したものを事前に一緒に確認した。DropTalk で作成したカレンダーや大会当日のスケジュールも合わせて確認した。走ることがあまり好きではなく、校外での活動でいつもと違う流れだった。しかし、当日は緊張をしながらも自分の担当区間を走り、仲間にタスキを渡した。走り終わった後「がんばった!!」と何人もの仲間や教員に言葉をかけていた。笑顔も出ていた(2021.12)。後日国語の授業で年賀状を書く時、1年間の思い出として駅伝大会を自分で選び記入していた。友達と一緒にがんばったことが楽しかった要因の大きな一つであるが、iPad を使用して心理的な安心があったことも、「楽しい」を支えた要因と思われる。

床清掃の手順表を自分で作成し動きの確認をした。紙の手順表を見ながら言葉を入力。文字の色などを自分でアレンジしていた。床清掃は苦手意識があったが友達の手本なども合わせて参考にしながら取り組むようになった(2021.11~12)

カメラ



活動内容を写真に撮る。一日の振り返りの際に写真を見て日誌記入の際にヒントになるよう使用する。写真を見て単語や文章作りのヒントにする。

本校では下校前に一日の振り返りを連絡帳に書いている。以前は「作業がんばりました」「体育がんばりました」のみの記入だった。また、質問をすると「わかんない!」「わかりません」と顔をしかめることが多かった。タブレットでその日に撮った画像を見ると、見て分かった単語を繋げて答えるようになり(2021.12~)。自分から進んで写真を見て選ぶようになった。が、で、に、をなどの助詞のヒントを伝えると「作業で○○をしました。」などの文章で振り返りを書くようになった。例えば花を植える(定植)について作業で行った場合。写真を見ることで、「花!」「土!」「掘る!」など積極的に表現し、時には「上手にできました」「楽しかったです」とも記入することがあった。それと同時に「わかりません!」と顔をしかめることがなくなり、何かしらを言うとしていて、表現したいという意欲がよく見えるようになった。

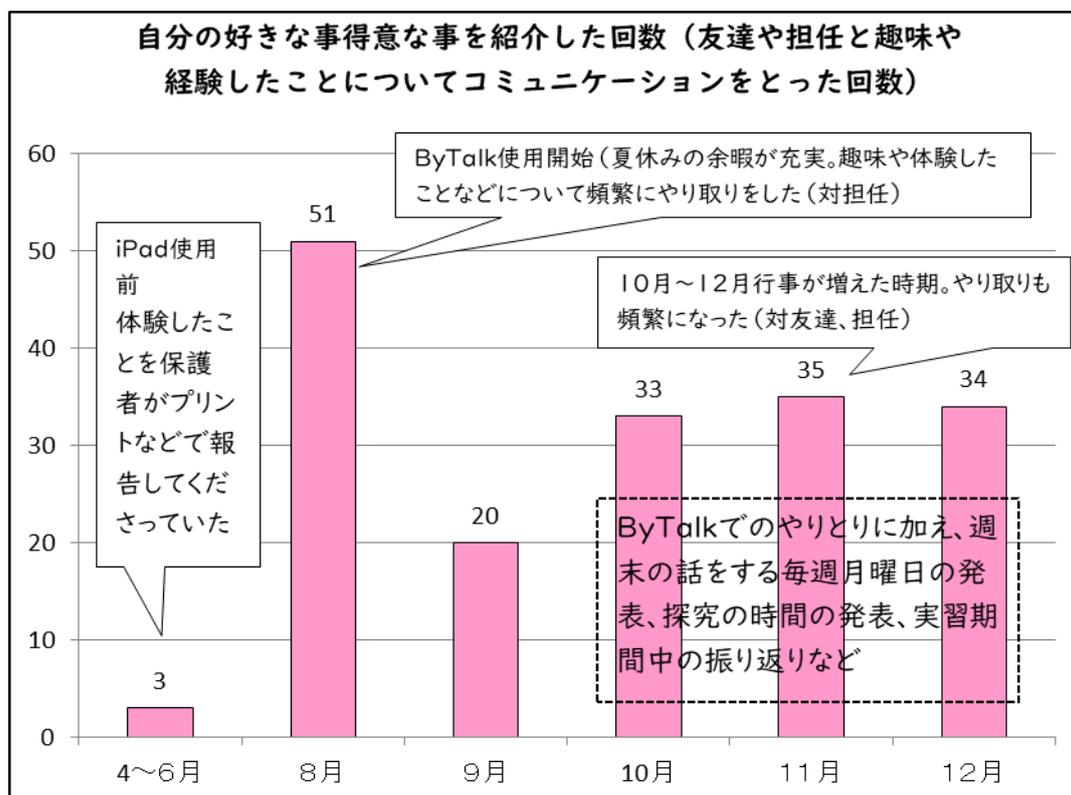
【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ・自分で自由に操作できる ICT を使った写真や動画、イラスト、音声（音楽）を活用し自分を表現することで、友達や教員、保護者との理解やコミュニケーションが広がったのではないかと。好きなこと、得意なことなど自分について伝えることができ、それに対してみんなが反応してくれる楽しさが分かったのではないかと。
- ・iPad の写真や動画、イラスト+音声を活用することで心理的な安心が増えたのではないかと。また、それに伴い言葉の理解も進んだのではないかと。

・エビデンス

①自分の好きな事、得意な事、経験したこと等を紹介した回数（友達や担任と趣味のことでコミュニケーションをとった回数）



②夏休み明け、私をクラスに掲示してある学校だよりまで連れていき、自分が現場実習へ行った時の写真を見つけ出し、指差して「これ」「わたし」と言って笑った。（学校で自発的にこの行動を行ったのは初めて）。それまでに出ていない話題を自分から発信したことは、ByTalk で写真を見て短い文字でやり取りしていた成果だと考える。

③振り返りの時に「わからない!」「わかりません!」と言って顔をしかめた回数

（主に作業学習、職業実習の授業があった日の振り返り時）



2020年5月（開始当初）	2021年1月	2021年2月
10回	0回	0回

iPad の写真を見ることで、「花!」「土!」「掘る!」など積極的に表現している。それと同時に「わかりません!」と顔をしかめることがなくなり、何かしらを言おうとしている。表現したいという意欲がよく見えるようになった。

④振り返りの時の文章の変化



作業がんばった

短い表現2021.5



作業で大根をとりまわす。

内容が書かれるようになった2021.12

・その他エピソード

保護者アンケート



ByTalkの利用により、学校での朝の会をタブレットや画像を使って発表できると、自宅では行けぬ料理やイベントを経験した写真を撮るのを観るから理解し、先生へのネットコミュニケーションを自分で積極的にしようとする気持ちも芽はえたと感じました。

ByTalkの利用は、子ども取っも親にとっても、普段のコミュニケーションを手助けしてくれるツールとして役立ってくれていると感じています。いつも言葉だけの会話よりも、あまり本人の反応がなかったり、会話の短くたりからでたのが、子どもが理解しやすい視覚のツールが行き届いていくと、コミュニケーションが広がっていくと思っております。

今回のプロジェクトは私共にとっても大変嬉しいものでした。短いながらも、多少の作業は必要としまして、アクリルに入っているイラスト、画像を使って、理解して自分たちのコミュニケーション、発表の力がついて！と思っております。この試みは将来的には学校、教育の場だけでなく、就業する会社、役所の年配者、公共のコミュニケーションツールと広がってほしいと願っています。

【今後に向けて】

「したいこと」「どこかへ行ったこと」など伝えたい気持ちがあってもどう伝えるかが自力では難しい部分はまだあるとご家庭でも学校でも感じられる。他者とのやり取りの場を頻繁に行い、「楽しい」「うれしい」を感じられることをベースに画像や動画、音声、文字にいつでも簡単にアクセスできるICTを継続して活用し、生活の中の単語とイメージの合致などを進められればと考える。「表現することは楽しい」「表現できて嬉しい」「分かって＆分かってもらえて嬉しい」をベースにすることで、文章を書く力にもつながると考えられる。

【クラスも変わった!?】

ペーパークラフトや料理が上手で以前も作品や写真などご家庭の協力で持たせてくださっていたが、その詳しい過程は分からなかった。しかし、ByTalkで詳細を知ることができ、ペーパークラフト作りでは、本格的な工作カッターやピンセット、ハサミなど数種類を使い分けていることや、多才であること、多くの体験をしていることがさらに分かった。共有、共感の場が増え、家での様子、本人の実態をよく知れたことでこちらからの投げかけが多くなった。同時にクラスメイトの「好き」や「得意」の発表の場、共有の場も増えていった。本生徒だけでなく、他の生徒もICTでの画像や動画を用いて話を共有することで、理解や興味が湧き「自分も話したい!」という気持ちになったのではないかと、大変嬉しく思う。